

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「会社の理念」、「系列グループホーム共通理念」、「のぞみの家の理念」の3つの理念を毎日の朝礼と夕礼で斉唱している。「のぞみの家の理念」は職員全員でよく話し合っ決めてものである。また理念の実現のための職員各自の努力目標を定め、掲示している。	職員全員で検討し事業所の理念を作成し、毎日の朝礼・夕礼で斉唱し、職員全員で確認しています。また、年度毎の個人目標も設定し、振り返りを行うことで理念の実践に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内回覧板で情報の受け取りをしながら地域の情報を入手しているが、今年はコロナ禍で地域の行事も軒並み中止になった模様。地域こども会様の夏休みラジオ体操には会場として駐車場を提供し、一部入居者様も参加して交流した。一般の地域交流は中断しているが、例年は地域行事に参加したり施設行事に来て頂いたりして交流を図っている。	事業所の駐車場で行われる地域こども会の夏休みラジオ体操に参加したり、今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛していますが、例年では町内のお祭りや行事にもご利用者と一緒に参加するなどの交流が行われています。また、ホームのバーベキュー大会に近所の方に参加して頂いたり、小学生の体験学習も受け入れるなどし、地域との交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により、地域の方々に対するの広報活動は町内会長への広報誌配布以外はできなかった。コロナ禍の収束を見て取り組みを開始したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年は、入居者、ご家族、市職員、町内会長、地域包括支援センター職員に参加して頂き、利用者やサービスの状況等の報告を行い、意見の交換を行っている。今年度は現在まで、コロナ禍で書面による報告のみとなっている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で書面送付での開催としてますが、市の担当者、町内会長、地域包括支援センター職員、ご家族に対して事業所の活動内容や入退去の情報を報告し、頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在は、運営推進会議の資料を2ヶ月に1回提出することにより、サービス内容について細かく報告を行っている。例年は運営推進会議の場で直接の情報交換を行っている。その他、研修や会議の案内を受けて参加している。	市の担当者と包括支援センター職員には運営推進会議での報告をしているほか、運営上の不明な点等があれば相談し確認しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の権利擁護・虐待防止委員会(兼身体拘束廃止委員会)を開催している。また毎月の社内研修のうち、年2回を身体拘束や虐待関連の研修として実施している。身体拘束をしない根拠を理解した上で身体拘束をしないための介護支援を行っている。	身体拘束は行わない方針のもとに、玄関の施錠も夜間のみとし、職員の言葉遣いについても指導したり、事業所内でも研修や検討会を定期的実施し、職員の理解を深めています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修のうち、年2回を身体拘束や虐待関連の研修として実施している。虐待防止の意識を高めて、互いに虐待を防ぐように、見過ごさないように努めている。	身体拘束同様に、事業所にて虐待の防止に関する職員研修や検討会を定期的実施し、理解を深めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度は社内研修で社内研修や自己学習で理解をしているが、浸透には十分ではないと考えている。実際の成年後見制度の活用となると、候補者がいてもコロナ禍で身元引受人との面談や話し合いが進まずに中断している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際は、重要事項説明書その他の書面を活用して十分に説明を行い、不安、疑問に答えながら理解と納得を頂いてから契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が気軽に意見を言いやすいような、また家族等が電話や面会時に気楽に言えるような雰囲気作りを心掛けている。また意見箱を設置している。実施、改善できる事はすぐに実行に移している。	玄関に意見箱を設置しているほか、ご家族とは面会時や電話でのやりとりで要望を確認したり、サービス担当者会議にも参加していただき、意見をいただける場としています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務での意見や提案は連絡帳の活用のほか、管理者は就業時間帯でいつでも意見や相談を受け付けている。またリーダー職とは日頃から常に意見交換している。代表者の決済が必要な事項については報告、申告をしている。	連絡帳を活用し職員の意見を吸い上げるようにしているほか、管理者も個人面談や、現場で業務を実際に行う中で、職員とも業務の中で意見交換を行ない、対応するようにしています。	定期的な職員会議を開催し、職員の提案や現状の問題等について一緒に検討される機会を設けられることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や個々の職員の努力、実績、勤務状況は自己評価、管理者評価、研修テスト、レポート、面接を通して把握されている。その意見は上司を通じて代表者に届けられて就業環境や就業条件の改善・整備に反映されていると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修、オンライン外部研修の実施、技能実習生の育成、その他レポート、評価などを通して人材育成を行っている。本年度は介護未経験の社会人を2名採用して育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の研修や会議への参加を通じて、同業者の動向を探ることは行っているが、本年度はコロナ禍でもあり、交流までには至っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は本人の要望や困りごとに敏感に感じつつ、施設や他の入居者・職員と良好な関係が築け、施設での生活に慣れて快適なものとなるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや要望を傾聴し、本人の思いと摺り合わせ、施設側からできるだけよりよい提案をしながら関係づくりをすすめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その段階での必要な支援を見極めた後、その後起きる新しいニーズに対応してゆくようにすすめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を人生の大先輩として敬い、時には人生経験の教えを乞い、笑顔を絶やさず、暮らしを共にするものとして支え合う関係を築くよう努力している。		
19	(7-2)	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族通信で月1回、本人の様子を詳しくお知らせするほか、面会自粛となっている中でも電話での会話・オンライン面会や受診同行で家族の絆を深めて頂き、ご家族とともに支援する関係を築くようにしている。	月に1度は担当職員がご利用者毎にコメントを記入した事業所広報を送付し情報を共有しているほか、受診・外出の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	家族通信において、日付の記入漏れや内容の記載ミスがありましたので、今後ミスの無いように改善されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との面会や外出、訪問などを自由に楽しんで頂いていたが、現在コロナ禍で中断している。手紙・年賀状のやり取り、電話での会話、オンライン面会で関係性の継続に努めている。	コロナ禍でもZOOMを活用してご家族と面会したり、職員と一緒に自宅に出かけたり、定期的に図書館にも出かけるなど、今までの関係継続支援に努めています。	コロナ禍においてご家族が受診支援等で事業所に来られる際には、検温や体調チェックをしっかりと行われることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のやり取りなどを職員間で情報交換して、適切な関わりが持てるように工夫し、時には席替えや居室変更も行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も情報提供など必要な支援は行い、要望があれば相談も行っているが、必要とされることは少ないと感じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向の把握に努め、意思表示が得られない場合でも家族などの聞き取りや日常生活での行動の現れ等の観察を心がけている。	利用開始時のアセスメントに加え、日々のケアにおけるコミュニケーションや行動から得た情報を確認し、情報の蓄積と職員間で共有が行われています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談面接、事前面接、契約時、電話での聞き取り、本人との日々の会話などを通してこれまでの暮らし方を把握するようにつとめている。	センター方式を使用し、これまでのケアマネジャー、ご家族やご本人に聞きながらこれまでの情報の把握し、フェイスシートを作成しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前に相談や面接で暮らしの状況について聞き取りを行っている。入所後は本人の様子を観察、現状を把握し、状況の変化に応じて本人が暮らしやすいように柔軟に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、介護職員や看護師、理学療法士から意見やアイデアを伺い、現状に合った介護計画となるように活かしている。3か月に1回モニタリングを担当職員が実施して介護計画へと反映させている。	介護計画については3ヶ月に1度モニタリングが行われており、介護計画見直しの際にはサービス担当者会議を行い、意向を反映した介護計画を作成しています。	調査時点において介護計画書の作成が遅れている方や、サービス担当者会議録の記載内容が実際の会議の内容が反映されていない方もいましたので、今後改善されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の記録に日々の様子、ケアの実践、結果、気づき等を記入して情報を共有し、実践や介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々発生するニーズを把握して、施設で対応可能な方法を検討、実施し、不十分なことには関係者の協力を依頼している。ただし事業所の多機能化にまで至っているとは言えない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナ禍により、地域資源の活用は、図書館へ出かけて本の貸し出しを受ける程度にとどまっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入所前のそれぞれのかかりつけ医へ受診して頂いている。本人の心身の状況に応じて精神科の受診も支援している。	ご家族と職員が状況に合わせて受診支援をしています。医療機関にはご利用者の経過をまとめたお手紙を渡したり、職員も同行するなどして情報提供を行なっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、当社看護師が巡回するので、情報を伝え、相談、指導を受けながら適切な支援につなげている。その他、必要に応じて随時、連絡を取り合っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急入院時に付き添って、情報提供などの支援を行う事が多い。入院中はご家族や病院関係者とも連絡を取り合っ、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重篤化対応方針を説明し、同意して頂いている。看護師が週1回巡回しているが、終末期については基本的に看取り介護を行わない方針である。	ホームでできること、できないことを明確に示した基本方針を定め、契約段階で管理者はご家族に基本方針を伝えており、ご利用者の状態に応じてその都度話し合いを行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを決めて周知している。昨年、今年ともコロナ禍で救急救命の勉強会は中止となっている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で中止しましたが、例年では事業所内でも普通救命講習の機会を設け、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を整備、避難計画書を作成し年に2回防災訓練を行っている。コロナ禍が収まった後は、必要時には町内会と連携して支援を仰ぐようにしたいと考えている。	日中・夜間の火災や地震を想定した避難訓練を年2回実施しており、地域の方にも協力をお願いしています。事業所には、非常用の食品や水の準備も確保されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホームの理念として「一人一人の人生観と価値観を尊重します、思いやりの心で接します」と掲げて、言葉かけや対応に生かしている。	ご利用者の呼び方や言葉の使い方については職員に指導しています。また、広報誌への写真の掲載についても契約時に個々に確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が気軽に職員や管理者に希望を言える雰囲気にある、また利用者が自己決定できるチャンスが増えるように声掛けなどを工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課はあるが、一人一人のその日の調子を把握しながら、各人のペースで過ごせるように、希望に沿うように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方にはお任せをし、支援が必要な方には声掛けをしたり、準備をしたり、手伝ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が楽しみながら積極的に食事の準備や片付けを手伝っている。月に2回程度、レクレーションとしてできる方全員参加で夕食作りを手伝っている。またほぼ毎日、食器ふきなど行って頂いている。	ご利用者のできる範囲で調理や後片付けなどに参加していただくこともあります。また、ご利用者の要望に添っておやつ作りをしたり、畑で野菜を収穫したり、季節に合わせて芋煮会を行うなどし、ご利用者に食事を楽しんで頂いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べる量、栄養バランス、水分量を観察して記録している。歯が無く誤嚥の恐れがある人にはついてはペースト食とするなど、健康状態が維持できるよう支援に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合わせた口腔ケアの促しや支援をおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の能力に合わせてトイレで安全に排泄できるように支援している。必要時には排泄チェック表を活用しトイレ誘導を行っている。	排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な排泄誘導、支援をしています。	排便間隔の記載について記入ミスがありましたので、今後ミスの無いように改善されることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日実施、また水分摂取量を記録して水分を十分とって頂くようにしている、個々の状況に合わせて食物繊維や下剤の服用、体操の実施、看護師による処置などで排便をコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔保持のため週に2回の入浴を目標としているが、その日の体調、本人の気分、都合などに合わせて入浴の順番を変えたりして支援している。気持ちよく入浴できるよう入浴剤を使用したり、冬期はゆず湯などを提供している。	ご利用者の好みの時間帯に入浴していただけるように支援しており、入浴を嫌がる方には声かけのタイミングを変えるなどして入浴をしていただけるように努めています。	調査時点で週に2回の入浴回数の提供が全体的にできておりませんでしたので、今後入浴回数を増やせるように改善されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠を第一に、生活にメリハリをつけるように支援しているが、日中の休息も自由にして頂いている。夜間不眠の方には安心して眠りに着けるように、声かけ寄り添う支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報の共有、周知を心がけて症状の変化に気を付けて看護師と協働している。服薬事故が起きないように介護職員同士でダブルチェックをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の日課での個々の役割(食器片づけや洗い物、食器拭きや洗濯物干しなど)の他、個人の事情に応じて散歩・ドライブ・買い物、自宅訪問などを行っている。毎月何らかの行事を提供し喜んで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出に制限がある中で、天候を見極めて散歩やドライブにお誘いをしている。コロナ禍の制限が緩和された時には、本人の希望を伝えて、ご家族からも面会を行って頂いたり自宅へ連れて行ったりなどの支援をお願いしている。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、季節に合わせてお花見や紅葉見学に出かけるなどの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持や買い物の支援については、本人の能力を見極めて、一部入居者様には、金融機関やホームセンター・スーパーへの同行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望を受けて、電話や手紙のやり取りを支援している。面会自粛を受けて窓越し面会やオンライン面会も実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間で不快な刺激を与えずに、快適に過ごせるように配慮している。壁絵や飾り物、花などで季節感が感じられるようにしている。	共有スペースには畳の小上がりがあり、季節の花を飾ったり、飾られている写真やご利用者の作品も季節に合わせて変えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長い廊下にソファを置いて、気ままに利用していただいております。入所者が一人で、あるいは二人で座って会話を楽しんでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力を得て、居室内に馴染みの家具や物を置いて頂いている。ご家族から送られたプレゼントを飾ったりもしている。本人と一緒に整理整頓を手伝ったり、清掃を行ったりしている。	居室には、テレビ、タンスなど慣れ親しんだものを自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物自体は介護施設としての機能と一般家庭的な住み心地を併せ持っている。一人ひとりの能力に応じて居室前の名札やトイレ等の位置表示の工夫、またコミュニケーションツールを利用して支援している。		

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				